

第6回 ふるさと高原山を愛する集い 実施報告書



開催日：平成30年10月8日(祝)

開催場所：玉生運動広場

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会

祝「山の日」制定 ふるさと高原山を愛する集い

～ふるさとを思い、高原山麓での保全活動をみんなで考えよう～

期日：平成30年10月8日（祝）

場所：玉生運動広場（旧玉生中学校グラウンド）

主催：ふるさと高原山を愛する集い実行委員会

共催：塩谷町

後援：一般財団法人全国山の日協議会、矢板市、日光市、那須塩原市、
塩那森林管理署

協賛：とちぎ音の会、ふんちく、しもつけの心、小島酒造店、斎藤カツ
株式会社ティー・シー・シー、谷本丈夫、船村徹ふるさと会



“ふるさと高原山宣言”

山と川と海は、人が利用するにあたって適切な保全管理があってこそ、はじめて良好な環境が得られるといわれています。“高原山”は栃木県塩谷町の基本構想にシンボルとうたわれているように、住民にとって心の支えであるとともに、水やおいしい空気、大地の恵みなどを供給しています。私たちには“高原山”の素晴らしい自然を次世代に継承していく責務があります。

当会名誉顧問の故船村徹先生は「山の日」の制定にご尽力され、2016年から8月11日が国民の祝日「山の日」となりました。「山の日」の意義は『山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する』とされています。

本日ご参加いただいた皆様方とともに、ふるさと“高原山”への思いと「山の日」の意義を共有し、高原山麓での保全活動を展開し続けていくことを宣言します。

平成30年10月8日

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会



プログラム

11:00～ 開会、あいさつ	見形和久会長 全国山の日協議会、来賓代表
ふるさと高原山宣言	塩谷町ジュニアリーダーズクラブのみなさん
11:20～ 船村徹先生追悼 スペシャルステージ	「故郷の山が見える」 歌手 えひめ憲一さん 「故郷の山が見える」等 とちおとめさん 「別れの一本杉」、「王将」、 「みだれ髪」等演奏 市川貴大事務局長
～12:05 情報提供	冊子の紹介 市川貴大事務局長
12:05～ 乾杯！ 点火！	うめしそジュースで乾杯 伊藤節子さん
12:10～ お楽しみステージ	バーベキュー開始、エコストーブによる釜飯の試食等 「永遠」 松本加奈子さん 「きたかん音頭」 イシヲロシアとそだんべくらぼ 「オカリナ演奏」 オカリナアンサンブルしおやさ 「下野不動太鼓」 下野不動太鼓保存会さん
13:30～ クイズ大会	全員参加で高原山のクイズに挑戦しよう！
13:50～ 緑化推進	「緑豊かな郷土づくりをめざして」 マロニエメイツのみなさん
～14:00 閉会	谷畑方夫副会長 ※苗木(アキグミ、ヤマツツジ)の配布 塩谷町緑化推進委員会

故郷の山が見える

木下 龍太郎 作詞
船村 徹 作曲 丸山 雅仁 編曲
鳥羽 一郎 唄

一
いちど東京へ 行くと言いながら
いつも口だけで ひとり野良仕事
老けたおふくろの やせたあの肩を
さすってあげたい
峠 越えれば 俺のふるさと
山が見えてくる

♪ ふるさとの山に向かいて 言うことなし
ふるさとの山は ありがたきかな(石川啄木詩集)

二
けんかしたけれど 何故か気があって
どこへ行くんだと 泣いてくれたやつ
月の縁側で 馬鹿を言いながら
ふたりで呑みたい
幼なじみと共に遊んだ
山が見えてくる

三
村を出るときは ひとり踏切で
汽車が消えるまで 背伸びしていた娘
町へ嫁に行き 母となったいま
しあわせだろうか
恋を失くした 遠いあの日の
山が見えてくる

参加者一人一人がボランティア！ 準備・片付け等ご協力をお願いします！

ふるさと高原山を愛する集い
 ～ふるさとを思い、高原山麓での保全活動をみんなで考えよう～

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会 市川 貴大

第6回ふるさと高原山を愛する集いが平成30年10月8日（祝）に玉生運動広場にて開催されました。第1回目は平成25年5月26日に日々輝学園体験学習館（旧塩谷高等学校）体育館（650名参加）、第2回目は平成26年10月26日に尚仁沢は一とらんど（300名参加）、第3回目は平成27年10月25日に玉生運動広場（700名参加）、第4回目は平成28年10月30日に玉生運動広場（600名参加）、第5回目は平成29年10月29日に玉生運動広場（台風のため食材配布のみ）にて開催しました。今回も玉生運動広場にて実施しましたので報告いたします。

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会による事前打ち合わせ

今年の集いは昨年度のリベンジをしようということで、打合せは比較的スムーズに進みました。日程について、町内でのイベントの重複を避けるため、10月8日（祝）にしました。ただし、募集開始前のチラシ郵送は効果なく、9月の天気が悪かったことなどから、募集に苦戦し、会長のご尽力により何とか一般申込が67.5セットとなりました。

表 ふるさと高原山を愛する集い実行委員会による活動実績

年月日	参加者数	場所	内容
2018年2月18日	9名	星ふる学校 「くまの木」	・里山学講義を共催 ・昨年度の反省と今年のイベント関係の確認 ・高原山登山道整備の要望について
2018年4月21日	9名	上寺島 活性化施設	・今年のイベント関係の確認 ・山開きについて
2018年5月12日	4名	は一とらんど 駐車場、西平 岳登山口	・は一とらんど臨時駐車場の草刈り ・西平岳登山口付近の倒木整理
2018年5月19日	43名	高原山	・高原山山開き ・3班体制で実施
2018年5月20日	10名	上寺島 活性化施設	・集いの日程について ・うめしそジュース選手権について ・写真展について
2018年7月14日 ～9月1日	-	尚仁沢 は一とらんど	・写真展の実施 ・今回は船村徹先生の追悼写真を特別展示した
2018年7月28日	7名	旧玉生 中学校	・取壊しに伴い、備品移動した ・バーベキューの練習
2018年8月4日	11名	上寺島 活性化施設	・うめしそジュース選手権の実施 ・11品のなかから、人気投票でグランプリを選出した
2018年9月1日	10名	上寺島 活性化施設	・来賓、バーベキューセット、会場の確認 ・申し込みは8セット。チラシの郵送は不発に終わる ・タオル、冊子の作成
2018年9月17日	3名	イヌブナ 自然林	・守子神社登山口～イヌブナ自然林までのササ刈り
2018年9月29日	26名	イヌブナ 自然林	・イヌブナ自然林ハイキング ・谷本名誉教授による解説 ・当日の役割について情報提供
2018年10月7日	13名	玉生 運動広場	・配布資料、炭、鉄板へのアルミはり、のぼり等準備 ・会場については当日
2018年10月8日	350名	玉生 運動広場	・ふるさと高原山を愛する集いの実施 ・スタッフ25名での対応
2018年10月26日	4名	高原山	・高原山登山道のササ刈り（予定）

高原山山開き、写真展、うめしそジュース選手権

高原山山開き、写真展、うめしそジュース選手権については、雑誌「しもつけの心」50号と51号に掲載済みですので、しもつけの心をご覧ください。

高原山登山道のササ刈り

9月17日（祝）に守子神社登山口～イヌブナ自然林ハイキングの散策路のササ刈りを実施しました。ヒルはだいぶ少なくなりましたが、少しありました。倒木等もちらほらあり、う回路をつくったりしました。昨年刈払いをしたためか、比較的作業しやすかったです。

10月26日（金）に高原山登山道のササ刈りを実施しました。倭文廣隊長は足の調子が悪いのでお休みです。青木修司さん、井澤晴雄さんは西平岳登山口から、前山、釈迦ヶ岳方面を、市川貴大は西平岳登山口から、西平岳、中岳、釈迦ヶ岳、前山方面をササ刈りしました。やはり釈迦ヶ岳山頂付近のササの生育は半端でないです。予想以上に生えていたため、若干手抜きをしながら何とか14時頃に合流し、3人で下山しました。



イヌブナ自然林ハイキング

尚仁沢湧水の上流部に位置する国の天然記念物である「イヌブナ自然林」を観察するために、10月8日（祝・月）、守子神社登山口の手前を起点にハイキングを開催しました。今回は26名が参加してくださり、塩那森林管理署の山口孝署長による国有林の話と宇都宮大学名誉教授の谷本丈夫先生によるブナ・イヌブナの話をしていただきました。時々小雨が降りましたが、普段と違うイヌブナの姿に参加者の皆様が見とれておりました。



ふるさと高原山を愛する集い前日の準備

10月7日は、13時から配布資料、木炭・着火剤の仕分け、鉄板へアルミホイルを敷く、のぼりの準備、を行いました。多くの実行委員が協力してくださったので、3班体制でスムーズにできました。うめしそジュースの仕分けは見形絹代さんがやってくださいました。ありがとうございます。

反省点として、前日に横断幕、機の配置やバーベ



キューコンロ、ステージの位置についてもあらかじめ決めておいた方が当日の準備がスムーズになることを改めて痛感しました。

ふるさと高原山を愛する集い当日の準備

8時集合ということで、机、バーベキューコンロ、横断幕の設置、会場のレイアウトを順次行いました。前日準備と当日ボランティアの協力により、スムーズに準備ができました。

当日使う机と椅子の数が足りないことに気がつき、旧玉生中学校の校舎内にある備品を最大限活用して、何とか乗り切りました。

受付については、配布物を前日準備し、あわせて申込名簿をアイウエオ順にしたので、こちらも滞りなく作業ができました。全体で350名ほどの参加がありました。

開会あいさつ

今年の司会はシンガーソングライターの松本加奈子さんと塩谷町地域おこし協力隊の近藤太一郎さんが行いました。近藤さんが積極的に松本加奈子さんをフォローしていました。

ふるさと高原山を愛する集い実行委員会の見形和久会長から開会あいさつを行いました。『多くの方に、今日は天気が良かったねといわれています。昨年は台風により中止にしたので、2年ぶりの開催となります。船村先生がお亡くなりになられて、早いもので2年が経過しました。船村先生は「高原山が「山の日」発祥の地だ」とおっしゃられていました。残念ながら高原山が雲で見えませんが、自然の中でバーベキューを楽しんでほしい』と述べられました。

来賓代表として、地元衆議院議員の福田昭夫先生と斎藤淳一郎市長からご祝辞をいただきました。福田先生からは『故船村先生は「虎は死して皮を残す」との故事のとおり、大変な遺産を残してくれました。国民の祝日「山の日」というレガシーです。塩谷町が高原山と共にまちづくり、地域づくりが続いていくことを期待します』と述べられました。



続いて矢板市の斎藤淳一郎市長から、『高原山は3市1町（矢板市、那須塩原市、日光市、塩谷町）のふるさとの山であり、矢板市内の12の学校の校歌に「高原山（たかはらやま・たかはらさん）」と紹介されています。釈迦ヶ岳は塩谷町と日光市にあります。そんなこと言わないで、関係市町と共有し、今後もふるさと高原山を愛する集いの活動をしっかりと応援していきたい』と述べられました。



谷垣禎一会長からのメッセージ

今年も全国山の日協議会からご後援を賜り、会場にはお父様が塩谷町船生地区ご出身の手塚友恵事務局長にお越しいただき、全国山の日協議会の谷垣禎一会長のメッセージについて『「ふるさとを思い敬う心」、それはまさに塩谷町出身の故船村徹先生の「山は心のふるさと」という言葉、そして山の趣旨である「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」にも通じており、「ふるさと高原山を愛する集い」が末永く継続して開催されることを心より願っています』と代読いただきました。



ふるさと高原山宣言

子ども会育成会活動および地域活動等において青少年指導者として活躍されている塩谷町ジュニアリーダーズクラブの大島有介さんと斎藤裕也さんに、2ページに記載してある「ふるさと高原山宣言」をしていただきました。宣言にもあるように、「ふるさと“高原山”への思いと「山の日」の意義を共有し、高原山麓での保全活動を展開し続けていくことが大切だと改めて認識いたしました。



えひめ憲一さんオンステージ

毎年ふるさと高原山を愛する集いに駆け付けてくださるえひめ憲一さん。実は毎年ご協力いただいている音響（とちぎ音の会）はえひめ憲一さんのお口添えで協力いただいております。えひめ憲一さんからは、「山はシンボルで、山がみえるとホッとします。特に高速道路を走行すると、「山」が目印になったりします」と述べられ、我々のテーマソング「故郷の山が見える」をはじめ、「故郷が一番」、「噫 西郷どん」、「人生旅列車」、「小さな約束」を熱唱されました。なお、今年照代さん



とご結婚されたということで、益々のご活躍を期待しております。

とちおとめさんオンステージ

ギターDuo「とちおとめ」さんは、道の駅湧水の郷しおやでのイベントにもお越しいただき、道の駅等を中心に、各種イベントに出演されておられます。今回船村徹先生の追悼ということで、船村先生の曲「兄弟船」、「王将」、「別れの一本杉」、「みだれ髪」、「川の流れるように」をご披露いただきました。故船村徹先生もさぞかし喜んでくれたのではと思います。



情報提供「冊子とタオル」の紹介

当会の市川貴大事務局長から、『雑誌しもつけの心のご協力で、このたび連載記事をまとめた冊子を作成しました。タオルは高原山を守ってくれた恩師・故和気辰夫さんの息子さんの和気守さんが絵を描いてくださり、作成しました。冊子の47～48ページにうめしそジュース選手権について記載しました。この選手権でグランプリになられた伊藤節子さんに乾杯していただきたいと思いません』と述べました。伊藤節子さんから「高原山の無限のめぐみに感謝しまして、乾杯」と乾杯の音頭をいただきました。



バーベキュースタート

受付自体はスムーズに行われ、タオルは素早く完売になりました。木炭は大きいのが入っている袋が一部あったり、保管場所が若干湿っていたようで、火つけが悪かったのですが、着火剤を配布し、巡回して火付けにあたりました。恒例のいも汁も好評でした。いも汁の隣でご出店いただいた小島酒造店も、積極的に商品PRし、好評でした。えひめ憲一さんと奥様によるCD販売も好評でした。





くまの木里山応援団による「エコストーブ」による枝を使つての「羽釜ごはん」の試食会も行われました。お米は見形和久会長のご提供で、今年はチケット交換制にしました。「ご飯が好きだ」という子供さんや「甘くておいしい」と司会の松本加奈子さんのコメントなど、うれしいお言葉をいただきました。

お楽しみステージ

トップバッターは初出場で司会の松本加奈子さんです。最愛の旦那様を病気で失われ、2014年よりシンガーソングライターとして子供たちとキャンピングカーで全国行脚されています。とちぎ音の会の佐藤さまからのご紹介でした。司会の頃とは様変わりで、とても生き生きしていました。「走って」、「キャンピングカーに乗って」、「時計」をご披露いただきました。会場には2人の娘さんも来ていて、私の子供のように走り回っている姿を見て、ほほえましく思いました。

イシヲロシアとそだんべくらぶさんの登場です。イシヲロシアさんは旧玉生中学校の卒業生で、毎年校歌を歌っていただいております。また、船村徹先生作詞作曲の「塩谷町音頭」をご披露いただきました。この「塩谷町音頭」、懐かしいなという声がある一方、地元高校生にはまったく知られていないこともわかりました。「いかんべよ、いかんべさあ〜」。「きたかん音頭」では「だがね（群馬県）、そだんべ（栃木県）、そうだっぺ（茨城県）」の掛け声がこれまたい



いですね。締めねんりんピックにちなんで「ねんりんロック」をご披露いただきました。

つづいて、塩谷町の生涯学習講座(オカリナ講座)を受講生有志により平成23年に結成されたオカリナアンサンブルしおやの皆さまによる、「里の秋」、「忘れな草をあなたに」、「みだれ髪」、「カントリーロード」をご披露いただきました。「忘れな草をあなたに」の作詞家は故木下龍太郎先生で、塩谷町船生のご出身でした。木下先生とは晩年「羽谷久保親水公園」の環境保全活動にご協力いただき、「これからはもっと協力していきたい」を言っていただき、お別れとなってしまいました。オカリナの音色を聞きながら、つつい木下先生との思い出に浸りました。



締めで国民文化祭等にご出演されている下野不動太鼓保存会の皆さまによる、男体山をモチーフにした「男体嵐」、「電光石火」、「上弦の月」、「荒磯」をご披露いただきました。

鈴木会長は、塩谷町玉生にて太鼓茶屋 不動を営まされています。いつ聞いても下野不動太鼓の迫力ある音色に圧倒されます。なお、鈴木会長から「和太鼓はイベントの最初か最後が向いている」というお話をいただきました。今回は初めて最後に演奏いただきましたが、会場がとても良い雰囲気になりました。



全員参加の高原山クイズ大会

ふるさと高原山を愛する集い実行委員の手塚功さんのリードで、全員参加の高原山クイズ大会を開催しました。今年は来場者のほとんどの方が参加され、正解不正解含めて盛り上がっていました。問10でかなり絞られ、問16で終了となりました。正解者には限定20名様に見形和久会長から漆原敬さんご提供の旬の野菜セットを贈呈しました。予想以上に子供たちが来ていたので、次回開催時には子供たちが喜ぶことも検討したいと思います。



(問1) 高原山は、複数の山々の総称である。

「○」 釈迦ヶ岳、中岳、西平岳、鶏頂山、剣が峰

(問2) 高原山の最高峰は釈迦ヶ岳である。

「○」

(問3) 釈迦ヶ岳の標高は、約1,900mである。

「×」 約1,800m (正確には1,795m)

(問4) 高原山の山頂で、塩谷町船生からは見えて、矢板市側では見えないのは西平岳である。

「×」 鶏頂山 (西平岳は船生からも矢板からも見ることができる。)

(問5) 高原山は「活火山」である。

「○」他に日光白根山、男体山、那須岳

(問6) 高原山の中腹で採れる刃物のように切れる鋭い石は「石英」である。

「×」黒曜石

(問7) 西平岳の山頂は、日光国立公園のエリアの外である。

「×」エリア内

(問8) 高原山麓にある、東荒川ダムや西荒川ダムの周囲に、6月頃に泡状の卵を樹上に産むのは、シュレーゲルアオガエルである。

「×」モリアオガエル

(問9) 高原山の東側にある八方ヶ原に咲き乱れるツツジと言えば「ヤシオツツジ」である。

「×」レンゲツツジ

(問10) 尚仁沢湧水が名水百選に認定されてから、30年以上が経っている。

「○」昭和60年に認定されて、今年で33年になる。

(問11) 名水百選の尚仁沢の上流の川は権現沢である。

「○」

(問12) 和歌「水を越え 岩に至ると 胸をどる 高原山を 得しようにわれ」と詠んだ歌人は「与謝野鉄幹」である。

「×」与謝野晶子

(問13) 「与謝野晶子」が生まれたのは、大正時代である。

「×」明治時代

(問14) 寺島地区の落合箸パーキングの石碑には、地元の伝説「釈迦ヶ岳の神のしくじり」のお話が刻んである。この話の中で、山の神が夜な夜な通った美人が住んでいた塩谷町の地名は、「寺島」である。

「×」田所

(問15) 栃木県内には活火山は4つある。

「○」高原山、那須岳、日光白根山、男体山(2017年6月認定)
国内の活火山の数は現在111。

(問16) 釈迦ヶ岳の山頂は、塩谷町、日光市、那須塩原市の3つの町の境にある。

「×」塩谷町と日光市



緑化推進「緑豊かな郷土づくりをめざして」

とちぎ環境・みどり推進機構の増渕充理事長とマロニエメイツの谷田貝理沙さんに、栃木県の福田富一知事ととちぎ環境・みどり推進機構の五十嵐清会長から『平成30年度緑化運動テーマである「おちつくね ころよすらぐ 木のにおい」のもと、木を植えて、育て、暮らしに生かしていく緑づくりをしていきましょう』という県土緑化のメッセージをいただき、アキグミとヤマツツジの苗木を来場者に配布しました。今年の苗木は人気で、多くの方に緑化推進をお願いできました。



閉会あいさつ

閉会あいさつとして、ふるさと高原山を愛する集い実行委員会の谷畑方夫副会長から『「ふるさとを思い、高原山麓での保全活動をみんなで考えよう」というスローガンの下、第6回ふるさと高原山を愛する集いを開催したことで、山への思いを理解し参加者同士の交流が深めることができました。故船村徹先生は高原山をこよなく愛され、ふるさとと山への思いも深く、今回の集いでは船村先生も万歳されているのではないかと思います。船村先生の想いをつなげていこうではないか、そして想いを引き継ぎ、自然を愛し、町を愛し、日本を愛する国民であってほしいと思います』と述べられました。



皆様の御協力を賜り、第6回ふるさと高原山を愛する集いが無事に開催できました。去年は台風で中止となり、今年の9月は天候に恵まれないなど、今回はこのような天候リスクも踏まえてお申込みいただきまして、感謝に堪えません。午後になり一気に会場が良い雰囲気となり、参加者も増えていき、閉会時まで多くの方がいらっしゃいました。開催して良かったなあと思いました。何よりもボランティアにて参加して下さった実行委員会メンバーと塩谷町役場の黒田明典さんの御協力なしでは開催することは不可能な状況でした。また、ご後援・ご協賛いただいた皆様に心より御礼申し上げます。



反省点もございますので、実行委員内で課題を共有し、来年に結びつけていきたいと思っております。今後とも皆様のご協力とご参加をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(備考)

- ふるさと高原山を愛する集い実行委員参加者
見形和久会長、谷畑方夫副会長、漆原敬、手塚功、和気芳道、小野崎保男、手塚一信、宇賀神一雄、青木修司、和気仲男、斎藤カツ、小野崎千鶴子、倭文廣、斎藤民枝、井澤晴雄、中山信子
市川貴大（事務局長）、黒田明典（塩谷町役場山の日担当）、近藤太一郎（塩谷町地域おこし協力隊）
- 当日ボランティア
杉山太郎、岡部紀宏、大塚元子、栗田春奈、高山早紀、西川智善史
- 協力団体
塩谷町役場、高原山の自然を守る会、船村徹ふるさと会、花の会、塩谷町写真サークル「あそぼ」、高原山神社、くまの木里山応援団
- ご協賛（ご協賛賜り厚く御礼申し上げます）
とちぎ音の会、ぶんちく、しもつけの心、小島酒造店、斎藤カツ、株式会社テー・シー・シー、谷本丈夫、船村徹ふるさと会、和気守、くまの木里山応援団、漆原敬



(写真は和気仲男さん、青木修司さん、市川貴大撮影)
(この報告については雑誌しもつけの心にて連載予定です)